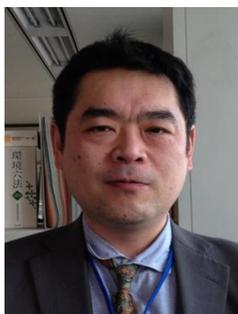


プロフィール

<講演者>



■ 柏谷 和久 (かしわや かずひさ) 環境省総合環境政策局環境影響審査室 審査官
平成9年北海道開発庁（当時）入庁、主に河川計画を担当。各保護増殖事業計画には事業者として参画。平成24年から現職、松前北部風力発電事業の他、火力発電所、廃棄物最終処分場、諫早湾開門アセス、復興特定アセス等の審査を担当。



■ 小野 宏治 (おの こうじ) 環境省釧路自然環境事務所野生生物課 課長補佐
北海道海鳥センター及び初代の羽幌自然保護官を経て、平成18年度より現職。オジロワシ・オオワシのほか、タンチョウ、エトピリカの各保護増殖事業についても主に担当。



■ 白木 彩子 (しらき さいこ) 東京農業大学生物産業学部生物生産学科 講師
専門は鳥類の生態と保全。北海道大学大学院生時代からオジロワシ・オオワシの生態研究に従事。オジロワシの衝突事故をきっかけに風車の問題に関わる。



■ 中川 元 (なかがわ はじめ) 元・知床博物館 館長
1950年札幌市生まれ。1973年北海道大学農学部卒業。斜里町立知床博物館学芸員、知床財団事務局長を経て、2011年まで知床博物館館長。ワシ類など鳥類の生態を研究。



■ 河口 洋一 (かわぐち よういち) 徳島大学大学院リハビリサイエンス研究部 准教授
1970年福井県生まれ。新潟大学大学院自然科学研究科修了。博士（学術）。森と川のつながりに関する研究で学位を取得、その後は川の蛇行復元、氾濫原湿地の再生、トキ野生復帰など自然再生に関する研究を行っている。現在は、応用生態工学会幹事、日本景観生態学会専門幹事、保全生態学研究の編集委員をつとめる。

<パネリスト>



■ **藤巻 裕蔵 (ふじまき ゆうぞう)** 帯広畜産大学 名誉教授

1938 年生まれ。1966 年北海道大学大学院農学研究科博士課程修了。北海道立林業試験場と帯広畜産大学に勤務。帯広畜産大学名誉教授、山階鳥類研究所特任研究員。専門は鳥類生態学。



■ **黒澤 信道 (くろさわ のぶみち)** 鉛中毒ネットワーク 代表

獣医師。野生動物の救護活動をする中で、1997 年にエゾシカ猟の鉛銃弾を原因とするオオワシの鉛中毒に遭遇したことから「ワシ類鉛中毒ネットワーク」を結成、オオワシ・オジロワシの鉛中毒の根絶を目指して活動を続けている。



■ **小菅 正夫 (こすげ まさお)** 元・旭山動物園 園長

札幌出身で、北海道大学獣医学部卒業後旭川市旭山動物園へ獣医師として入園。日本動物園水族館協会の種保存委員会では、猛禽類別調整者を勤め、猛禽類の野生復帰技術の確立を目指す。10 年旭山動物園を退園後、北海道大学客員教授を務め現在に至る。



■ **齊藤 慶輔 (さいとう けいすけ)** 猛禽類医学研究所 代表・獣医師

18 年間にわたり釧路湿原野生生物保護センターで野生動物専門の獣医師として活動。希少猛禽類の救護活動とともに、保全医学の立場から調査研究を行う。傷病・死亡原因を徹底的に究明し、予防のための生息環境の改善を「環境治療」と称し、活動の主軸としている。